

家庭教育力の強化を図る

家庭・地域・学校の連携を深めるPTA活動を目指して

豊明市立沓掛中学校PTA

1 はじめに

本校は、豊明市の南東に位置し、東は東郷町、南は刈谷市と隣接している。部活動の練習試合等では、愛知地区の学校のみならず、近隣の刈谷市など三河地区の学校とも交流がある。全校生徒 593 名、学級数は 20 学級（通常級 17、特別支援学級 3）、PTA 会員数は 554 名である。今年度は創立 40 周年を迎え、記念として全校生徒と教職員の人文字による航空写真を企画した。昨年度の文化祭を機に誕生した学校キャラクター「くっすーくん」を形作って撮影を行い、その写真をクリアファイルにして生徒全員に記念品として配付した。近くに境川が流れ、田畑に囲まれた大変のどかで、緑美しい学校である。



【本校全体の航空写真】

2 研究への取組

(1) PTA組織と活動内容

PTA 委員 37 名は、会長や副会長、書記などの「役員」と文化部・広報部・生活部の三つの部門のいずれかに所属している。文化部は文化教育事業の立案・運営。広報部は PTA 新聞「楠の木」の編集・発行。生活部は挨拶運動や下校見守り運動の立案等を主に担っている。年に 7 回の役員会では、それぞれの部門の提案や地区ごとの情報交換を行いながら交流を図っている。また、体育大会などの学校行事の手伝いや各種研修会への参加も PTA 委員の中で、互いに協力し合いながら進めている。

(2) 研究のねらい

本校の PTA の活動の目標および活動方針は、愛知県小中学校 PTA 連絡協議会のものに則って定めている。その中で、今年度は「家庭教育力の強化を図る」を重点目標に研究を行ってきた。第 1 の目標である「子どもと語り、ともに行動し、保護者としての自覚を高めるとともに、自らの責任を果たし、家庭教育の充実を図る」ためには、学校が子どもたちの様子や取り巻く状況、時に問題になることも積極的に発信し、家庭と情報を共有することが必要であると考え、研究を行った。

3 実践活動の概要

(1) 挨拶運動（年12日間）

P T A 委員だけでなく、全ての保護者に案内文を出し、朝の挨拶運動を校門で行っている。朝の短い時間だが、挨拶運動を行うことで、子どもたちの登校の様子や自転車通学者の自転車の乗り方、子どもたちの朝の表情や人間関係を見ることができる。また登校してくる我が子の表情を見て安堵する保護者も



【朝の挨拶運動】

いる。本校では、クールビズ期間が設けられていて、気候や体調に合わせて制服の着こなしを変えることができるので、その状況を見たり、学校ルールについて確認したりする保護者もいる。子どもたちのことを知るための情報交換の場としても機能している。また、挨拶運動の後は、朝のS T 参観を行っている。今年度もコロナ感染症予防対策として授業参観を取りやめているので、この「朝の参観」の取組は保護者に好評である。子どもたちの学校生活での普段の様子を見てもらうために今後も参加を促したい。

1年生の保護者から「自分から挨拶してくれる子は、声も大きく笑顔なのがマスクをしていてもよく分かりました。時間にゆとりをもって登校している子が多いと思いました。」という声が寄せられた。

(2) SNSトラブル防止教室

夏休みを迎える前の6月に保護者向けのSNSトラブル防止教室を開催した。講師に愛知警察署から生活安全課の方をお招きした。具体的な事例とともに、DVD「親や先生が知らない子ども防犯スクール～ネットSNSトラブル編～」を視聴して、スマホ利用によるトラブルについて学ぶことができた。トラブルに巻き込まれた



【SNSトラブル防止教室】

ときの対処法として、「親が逆上したり暴走したりする姿を想像して、親に相談できない子どももいる。子どもの言い分をしっかりと聞き、一緒に

考えることが大切で、この親に言ったらなんとかなると頼られる親になってほしい。」という言葉が重く響いた。

○ 参加者の感想

- ・ SNSに親自身が詳しくなく、とても勉強になりました。子どもがいかに危険を感じられるか、親子でいろいろな角度から相談していきたいです。自分の子どもがいつ犯罪者になるかもしれないと感じました。
- ・ 自分自身、気をつけて情報を得るようにし、その都度子どもたちと話題にしています。新しい情報が含まれていて、とても参考になりました。
- ・ どこかで「うちは大丈夫かな・・・多分・・・」みたいな感じで思うところもあったので、子どもと話し合いたいです。
- ・ 子どもたちが興味本位でSNSを通じて大人と知り合い、トラブルに巻き込まれていく事件が多いと聞き、怖いと思いました。

(3) 教育講演会

8月19日(木)に教育講演会を行った。講師として合唱作曲家の弓削田健介氏をお招きして「いのちと夢のコンサート」を開催した。保護者対象の講演会であったが、夏休み中ということもあり、子どもたちの姿も見られた。心に染み入るような優しい講師の歌声に癒やされながら、日常の慌ただしさから少し離れ、子どもの幸せを願う



【教育講演会】

親の気持ちを改めて思い起こす時間となった。自分の心と対話をする中で、子どもたちとの関わり方を見つめ直し、優しい気持ちで我が子と接したいと思える講演会であった。

○ 参加者の感想

- ・ 家族との時間、友との時間、一人の時間、大切に一日一日を過ごしていこうと思いました。
- ・ 言葉で人を感動させられることがとても素敵でした。また、子どもに対しての接し方も考えさせられました。
- ・ 大人(自分)が今日を大切に、明日を楽しみに生活する姿を娘たちに見せていきたいと思いました。
- ・ 3年ぶりに歌を聴くことができました。感動しました。素敵な言葉をたくさん教えてもらったので、今後子どもたちにも伝えていきたいです。

(4) 俳句コンクール

本校では毎年、国語の授業で外部講師を迎えて全校生徒が俳句を作る。その中から、本校の国語教師が30作品程度に絞り込み、最後にPTA委員が審査会にて優秀作品を選出し、PTA会長が表彰を行うという流れである。審査する前には、PTA委員も俳句の魅力について講師から講義を受け、評価の仕方について教えていただく。



【俳句審査会】

本来俳句は3年生で学習するのだが、1年生から俳句に親しみ、経験を積み重ねながら生徒は自分の感性を磨いている。保護者は、17文字で表現された俳句を通して、思春期の子どもたちの想いや感性を受け取る。俳句の作品を介しながら、子どもたちの内面に寄り添い、ほっこりしたり共感したりできる活動になっている。

○ 昨年度の優秀作品

- ・ 体感は 4日で終わった 夏休み
- ・ コロナ禍で 会えない人への 暑中見舞い
- ・ 境川 夏草伸びて 人見えず
- ・ 日焼けして 顔にはうっすら マスクあと
- ・ 今日もまた であえやであえ 蠅叩き

4 おわりに

PTA活動を通して、保護者は家庭内での親と子の1対1の関係を越えて、学校や社会の一員である我が子の姿を見つめることができた。仲間とともに成長している我が子の姿に改めて気付くことができ、その気付きや喜びが家庭教育力をさらに高めるものであったと信じたい。また本年度の取組の中心に、SNS等の今日的な社会問題と、いのちや絆について考える講演会をおいた。これもまた子どもたちを見つめる新たな視点を家庭へ提供することができ、家庭教育充実の一助となり得たことと思う。

子どもたちは、家庭と学校と地域でさまざまな顔を見せながら成長していく。どの顔もその子自身の本当の姿であり、そのことを周りの大人が理解して関わっていくことが大切であると考えます。家庭・地域・学校の連携の拠点として、PTA活動が機能するようにこれからも努めていきたい。